

11番目の認定へ

5月15日、北進自治会（三浦一会長）の自主防災組織に対し認定証が交付され、町内で11番目の自主防災組織が設立しました。

災害発生時に強く求められる「共助」。地域が一つになって防災に対する意識を高めるためにも、自主防災組織の設立が全国的に進められています。北進自治会の自主防災組織は、225世帯で構成され、今後、地震などを想定した防災訓練に取り組む予定です。



豊穡の秋を願って

5月22日、今年も阿部修一さん（早来新栄）の協力を得て、遠浅小学校恒例の田植え体験が行われました。

四半世紀ほど続く伝統行事となっている田植え。今年は、気温が低い中での体験となりましたが、上級生が下級生を手助けしながら一生懸命田植えに励む児童の姿がありました。今後は、草取りや稲刈りを行いながら稲の成長を観察していきます。



町の支援で資格取得

昨年、介護職員初任者研修（安平町社会福祉協議会主催）を受講した追分高校の生徒4名が、旧ホームヘルパー2級を取得しました。介護やボランティアに興味があり受講したという研修は、「進路を考える上でも貴重な経験となった」とのことです。

町では、福祉に関する資格取得を支援する事業を行っています。詳細は、健康福祉課福祉グループまでお問い合わせください。



農林水産省が推進する

「農場HACCP（ハサップ）」を導入

遠浅で養豚業を営む有限会社富樫オークファーム（代表取締役富樫儀禮）では、昨年9月から農場HACCPの認証取得に向け取り組み、今年4月24日付けで道内の養豚場としては5番目の認証となりました。

5月15日、同社でHACCPチームリーダーを務める富樫瑛一朗氏が来庁し瀧町長に認証の取得を報告。「生産した豚肉に対する評価が上がれば、生産者として励みになる。今後は、衛生水準の高い農場としてPRしていきたい」と豊富を語っていました。

農場HACCPとは

家畜の飼養において、感染症などの危害要因を防止するための管理体制を整え、その危害要因を防止するための管理ポイントを設定し継続的に監視・記録することで畜産物の安全性を向上させる取り組みのことで、農林水産省が作成した基準を民間団体によって認証手続きがされます。

農場HACCPは、全国で54農場（農林水産省発表 平成27年1月末現在）が認証を受けています。

